

大学図書館問題研究会 京都

〒607 京都市山科区大宅山田町34 京都橘女子大学図書館 小林倫道気付
(Tell) 075-574-4118 (Fax) 075-574-4124

【第24回全国大会参加レポート①】

大会参加の記

京都大学人文科学研究所 堀美智子

今年の大会は2日間で、開始時刻が朝9時30分という新スケジュールでした。当日滋賀から会場に9時半までに着くというのはかなりきびしく、着いたのは昼過ぎでした。結局全体会の終わりがけからの参加になってしまいました。全体会は1日目の9時30分から昼休み1時間をはさんで2時までという時間割でした。このスケジュールならば、いっそ前日に出掛けて夜の交流会にでて、全体会の最初から参加するようにすべきだったと思いました。

1日目、2時から5時の主題別分科会は人文系に参加しました。この分科会には3本のレポートがありました。第一に一橋大の飯島さんの「ブロンテと書評」。飯島さんは以前からブロンテ三姉妹の書誌を作っているということを知っていましたので、最近の研究成果を聞けるのを楽しみにしていました。今回はシャーロットが執筆で自活しようと自作についての新聞や雑誌の書評をととても気にしていたことを、資料に基づいて話して下さいました。

第二のレポートはこれも昔から有名な奈良の和田さんの会津八一に関してのレポートでした。和田さんと八一の研究は著名なものですが、今回は『明治・大正・昭和作家研究大事典』（桜楓社、平成4年）の会津八一の項目に和田さんの会津八一の書誌が収録されたという報告がありました。平素、お世話になる参考ツールの製作者側に図書館員が名を連ねるというのはなかなか出来ないことです。あらためて感心し、励まされました。

第三のレポートは名古屋大学の森正夫先生の「中国史研究と図書館」でした。京大の人文科学研究所に1年と少し前に異動した者としては耳の穴を大きくあけてききたいお話しでした。なかでも大学図書館のモデルとして京都大学文学部史学科閲覧室をあげているのが印象的でした。文学部の書庫は「AERA」で有名なように危険な程本を詰め込みすぎて、今ようやく新書庫建築計画が動きだしたところです。森先生が何故そのような図書室

| | |
|---|----------------------------------|
| 目 | 第24回全国大会参加レポート（堀美智子、村上美代治）・・・1頁～ |
| 次 | 支部総会議案（予算、決算）・・・4頁～ |

を理想的といわれるのかは、研究者の立場からの話を聞くと成る程と思われれます。先ず第一が四部分類を使っていること。学問の体系と同様であるため、書庫の中で本に囲まれながら思索できること。その書庫にある程度自由に出入りできること、をあげられました。これは中国史という分野の特性でもあるのでしょうか、主題分類をだんだん軽視する傾向にある今日、考えさせられるお話でした。

2日目は9時から5時までの間、2時間の昼休みをはさんで課題別分科会でした。私は「整理業務の変化とOPAC・主題検索」の分科会に出ました。まだまだ、機械の話が主流で主題検索の話題にまで話が行きませんでした。適当な話題提供もできなかったことを反省しています。

今年は、記念講演がありませんでした。ご当地の先生方のお話も楽しみの一つなのでまた復活させて欲しいと思います。

【第24回全国大会参加レポート②】

全国大会に参加して

龍谷大学経済学部事務室 村上美代治

図書館現場から学部事務室に異動して4回目の夏を迎え、事務室業務の多忙か、それとも本人の怠惰あるいは墮落によってかわかりませんが、時間の経過は本人を図書館の動向から疎くしてきているようです。ただ、会員として最低年1回の集いには参加して、会員としての自分の存在を確認したいと願って今大会に参加しましたので、その感想も含めて報告します。

大学改革は大学を取り巻く環境の劇的変化も加わってここ数年、特に大学設置基準の改訂以来本格化し、多忙化現象が大学全体に波及してきています。しかし、社会の大学を覗く目にも非常に厳しいものがありますが、より大事なことはさまざまな課題が相互に錯綜しているなかで、一定の視点でもって大学を覗いていく姿勢が必要だと思います。大学に籍を置くものとして、大学の状況を位相的に捉えるためにも、教務、図書館、就職、広報・・・といった各部署の動向を踏まえながら依り所なるものを持って捉えなければならぬ状況にあるといえるでしょう。

全国大会では、全体会、主題別分科会、課題別分科会の順に2日間にわたって開催されました。従来の3日間から2日間に縮小されましたが、図書館に求められている課題は一層大きくなってきていると同時に、図書館員に課せられた責務も重くなってきていることを感じました。

主題別分科会では「社会系」に参加しました。この分科会では、はじめに、平野喜一郎先生（三重大学）が『経済学ガイドブック』（青木書店、1993年）の刊行に至った経過・活動を詳細に、また、大学教員として学生と如何に接していけばよいのか、本書の活用方法についても言及されました。龍谷大学経済学部においては、カリキュラム改革真只中にありますが、私自身、「教育」という視点と経済学が問いかけている「現代的課題」

という視点に立脚して自分流にレビューしながら聞いていました。ただ、参加者にとっては自己紹介を兼ねた問題点を述べたに過ぎず、時間不足もあって議論するところまでいきませんでした。また、雑誌の休・廃刊のテーマも取り上げる時間がなかったことは至極残念でした。時間配分をも含めて今後の運営における一つの課題でもあるでしょう。

2日目の課題別分科会では、「大学の自己点検評価に図書館はどうかかわるか」に午前中参加しました。金子氏（資料提出のみ）は国立大学図書館の自己点検・自己評価状況をにらみながら新潟大学附属図書館について、続いて中島氏は名古屋大学附属図書館の状況を、更に、高橋氏はサービス度チェック表集計分析を点数方式にもとづいて報告されました。昨年から今年にかけて大学基準協会、私大連盟、国大図協から手引き、指針が公表されてきていますが、自己評価・自己点検の考え方を各大学とも同一レベルに引き上げたところであり、今後手探りのなかで、特に私立大学においては他大学の状況を見ながら検討されている状況にあるのではないかと、また既に作成している、もしくは作成段階にある図書館でも自己点検・自己評価に基づいて、図書館運営に反映されていくのは今後のことではないかと思いました。ただ、興味あることは既に実施した大学や図書館における報告書は判を押したように導入のいきさつ、意義を同一言葉やそれに近い言葉でもってその妥当性を説明していることです。実態は現場からの業務の創造性に基づくものというよりも行政指導や対文部省との関係でラインを通じて生まれてきたといった方が妥当なように思われます。それ故に、導入の意義を認めるとしても何故過去に民主的な方法、手続きでもって実施されなかったかを踏まえて、今後のなすべき課題などを検討されるべきであると思います。その意味では、最近発表されている自己点検や評価における論文はその手法にのみ拘って論じており、興味をそがれる思いがします。

以上、2つの分科会の報告をしましたが、最後に全体会をも含めた2日間に次の4点を感じましたので報告します。（1）改めて図書館における人的資源の重要性、です。全体会で編井氏の発言に象徴されているように（大会特集号を参照してください）、専門職としてのあるべき姿、そのために個人がなすべきことが今問われていると思います。

（2）図書館のシステム設計でよく言われることですが、「図書館の情報発進基地」としての性格づけです。この言葉はシステム以前の図書館において本来備わっているべき機能ですが……。むしろシステムに載せる以前にしておかなければ完成時においても不可能であり、学内において孤立無援に陥る可能性があると思います。（3）大学改革のなかで、一番の改革拠点（前線基地）は学部事務室で行われる各種の改革業務であり、その動向、たとえば教学理念の変更やカリキュラムの改革、入学試験、国際化と留学生、生涯教育などの動向を踏まえて、図書館としての政策に常に反映させていくべきでしょう。

（4）人的な大図研ネットワークの構築と同時に、学内図書館支援ネットワークの構築が必要だと思います。これは、財務、人事、教員、学部事務室従事者など、各部署におけるより良き理解者の獲得です。図書館側からの大学組織内部におけるコミュニケーションの発展と充実のための働きかけが必要であり、そのためにも戦略的編成を必要とするでしょう。図書館は有限な資源を効果的に調達、配分すべきプログラムをさまざまなチャンネルを通じて有していかなければならないでしょう。

1992年度決算(案) (1992.10~1993.7)

| | | |
|---------|--------|---------|
| 総収入 | 総支出 | 差引残高 |
| 294,660 | 54,245 | 240,415 |

残高のうち 150,000円 を特別事業基金へ繰入、
90,415円 を次年度繰越金とします。

収入の部

| 項目 | 予算 | 決算 | 備考 |
|----------|---------|---------|---------------------|
| 繰越金 | 94,760 | 94,760 | |
| 1992年度会費 | 170,000 | 173,400 | |
| 1993年度会費 | 85,000 | 0 | 会計年度を7月末としたため |
| 支部活動援助費 | 10,000 | 10,000 | |
| カンパ | | 26,500 | 京都の大学図書館・支部編 領布に対して |
| 合計 | 359,760 | 294,660 | |

支出の部

| 項目 | 予算 | 決算 | 備考 |
|---------|---------|--------|------------|
| 会報 | 45,000 | 45,315 | |
| 内訳 | | | |
| 印刷費 | 20,000 | 22,441 | |
| 郵送費 | 23,000 | 22,050 | |
| 通信費等 | 20,000 | 824 | |
| 研究交流集会費 | 30,000 | 8,000 | 新春合同支部例会補助 |
| 大図研大学補助 | 80,000 | 0 | |
| 事務費 | 10,000 | 930 | |
| 雑費 | 13,760 | 0 | |
| 合計 | 178,760 | 54,245 | |

| | | | |
|----------|---------|--|--|
| 特別事業基金繰入 | 80,000 | | |
| 次年度繰越 | 101,000 | | |

1993年度予算(案) (1993.8~1994.6)

収入の部

| 項目 | 予算 | 備考 |
|----------|---------|-------|
| 繰越金 | 90,415 | |
| 1993年度会費 | 170,000 | |
| 支部活動援助費 | 10,000 | |
| カンパ | 10,000 | 根岸氏より |
| 合計 | 280,415 | |

支出の部

| 項目 | 予算 | 備考 |
|------------|---------|-----------------------|
| 会報 | 50,000 | |
| 内訳 印刷費 | 20,000 | 外部に発注しない 郵便料値上げ見込む |
| 郵送費 | 28,000 | |
| 通信費等 | 2,000 | |
| 研究交流集会費 | 50,000 | |
| 内訳 新結合支部創設 | 10,000 | |
| 支部総会 | 10,000 | |
| 京都研究集会 | 30,000 | |
| 大図研大学補助 | 110,000 | |
| 全国委員会参加費 | 30,000 | |

| | | |
|-----|---------|--|
| 事務費 | 5,000 | |
| 雑費 | 35,415 | |
| 合計 | 280,415 | |

| | | |
|---------|---------|------|
| 総収入 | 総支出 | 差引残高 |
| 280,415 | 280,415 | 0 |

特別事業基金（案）

| 項目 | 予算 | 決算 |
|--------|---------|---------|
| 繰越金 | 150,000 | 150,000 |
| 1992年度 | 80,000 | 150,000 |
| 合計 | 230,000 | 300,000 |

【1992年度決算 並びに 1993年度予算の概要】

1992年度の執行状況の主な特徴は以下のとおりです。

- ① 収入においては、京都の大学図書館や支部報の頒布に対してカンパ収入が予想外に26,000余円あった。
- ② 支出においては、大図研大学がなく、研究発表会も支出なしで開催でき、それぞれ大幅に予算を下回った。
- ③ 結果において、特別事業基金への繰入を予算の倍近く計上できる残が出来たが、次年度以降は繰越なしとなるだろう。

1993年度の予算について

- ① 支出において、大図研大学運営補助費及び研究交流集会費について前年度分を上積みして計上。
- ② 新たに全国委員会参加補助として、30,000を計上。